

第一回 とやま水と緑の森づくり検討委員会発言要旨

※は県の回答

【知事あいさつ】

- ・ 県土の 2/3 が森林であるが、それが荒廃しつつあるといわれている
- ・ 森林にはいろんな効果があるが、木材価格の低迷などで、従来の森林所有者中心の対策だけでは限界があることははっきりしてきた。
- ・ 昨年秋にはクマが人里に降りてきて危害を与え、全国ニュースにもなった。何とか知恵を出して対策を講じていくことが必要である
- ・ 知事になって以来、県民と話す機会では必ずクマのことが話題となり、森をしっかりと守ろう、森と人との共生がしっかりできるような社会にするために労力やお金を出してもいいから、その仕組みをしっかりと考えてほしいとの意見もずいぶんいただいた。
- ・ 富山県の森林を守り育てようとする県民の意識が高まっていることはありがたいことであり、この期待に応えた対策を講じ、また従来の行政中心の対策だけではなく、県民の知恵とエネルギーを結集するにはどうしたらよいかも考えていきたい。
- ・ とやまの水と緑豊かな森を守り、育て、後世に引き継ぐことで、富山県の環境がもっとよくなり、県自体がますます魅力ある地域になるよう、いろいろな意見・提言をいただきたい。

【委員長あいさつ】

- ・ 森林は公益性が大きいことは理解されているが、昨年のクマ被害は人工林が多いことが原因といわれ、富山県は人工林が少なく天然林の多い県であるなど、森や里山に対する理解が乏しいと強く感じた。
- ・ この委員会では、森や里山の認識を新たにしながら、共通理解の上になんて、委員会の使命をお互いに果たしていきたい。

【検討委員会の進め方について】

- ・ 里山人工林と二次林、奥山人工林ではそれぞれ課題が違うので、対象ごとの取り組み方法をこの検討会で案を出すということでもいいのか。この委員会が何をまとめていこうとしているか、まずは議論したらどうか。
 - ・ 県民が森づくりに参加するといってもイベント参加希望であるなど、共通認識がまず重要。森林の公益的機能は、県民一人あたり年間 100 万円というが、具体的中身の提供が必要。
 - ・ 議論も絞らないと仕上がらないので、ガイドラインの素案を示して議論するほうがよい。
 - ・ 緊急性の高いクマや伐採跡地の笹地などは優先順位を上げるなど、ターゲットを絞った議論も必要ではないか。
- ※ 2 回目には検討課題にあるものを中心に、論点を広げない、緊急度の高いものからといった意見を踏まえ、具体的なものを出して議論いただきたい。

【森林の現状・課題の理解・認識について】

- ・ 森林の公益的機能の金額はどうやって出したのか。
- ※ 学術会議での算出方法に基づき、機能を他の施設に置き換える代替法で算出した。

- ・ 仕組みづくりにおいては、代替法による評価のほか、県民がいくら負担できるかという評価も大切なので出してほしい。
 - ・ 森林の公益効果はみんなが理解していると思われるが、市場評価方式の調査で、自分が金を出すということになると難しいものがある。
 - ・ 多面的機能という言葉だけでは十分理解されない。具体的に生活にどのように関わっているか、水害被害のシュミレーションなどが必要。
 - ・ 森林機能評価を貨幣換算しているが、ほとんどは天然林に依存しており、手を加えなくても機能がなくなることはない。これを税の根拠とした場合に必ずそういった指摘がある。
 - ・ 環境問題はゆっくりとした変化であり行動が取りにくい。放置したらどうなるのかのシュミレーションを素人にもわかるようにしてほしい。目的をはっきりさせないと手段が出せない。
 - ・ なんとなくは分かるが、放っておいたらどうなるのかが分からない。
- ※ 森林機能の金額について、積算根拠を分かりやすく示したい。

【森づくりガイドラインについて】

- ・ 標高 600m を里山と奥山の境とすることは、本検討会における目安として理解する。
- ・ どういった森づくりをイメージし、それにどう取り組むのか、私自身が分かるようにしてもらわないと、県民に理解してもらうのは無理。
- ・ 荒廃とは何か？どういう状態が正常なのか？そこにどうもっていくのか？どういうしくみにするのか？が検討の要になる。
- ・ 里山二次林の資源量はかつてないほど大きくなっているが、これを荒廃と捕らえてよいのかは疑問である。一方、林内には陽樹の後継者がいないなかで、伐採した跡が笹地化している場所もある。
- ・ 後継者として常緑樹が侵入しているが、暗いからといって伐ってしまうのはどうか？ケースバイケースで、現象を見ながら扱い方を細かく考えることが重要と考える。
- ・ 自然の遷移に任せる場所、里山再生を目指す場所それぞれがあっていい。荒廃しているからではなく、実情や現状をよく見る必要があるではないか。
- ・ 森づくりとは必ずしも手を加えることだけではない。
- ・ 多くの県民は裏山が明るくなってかつての明るい場所、生物と触れ合う里山を求めているのではないか？
- ・ 里山の整備といっても対象面積が膨大で、ボランティアを使っても限度がある。対象を絞らないと仕上がらない。
- ・ コナラも大きくなって炭にするのも大変。高齢化したコナラは萌芽もしないなど難しい問題があることも視野に入れていかなければならない。
- ・ 今世紀末には人口が半減し、山の手入れもできなくなる。長期的には手入れを必要としない森づくりも必要と思う。
- ・ 手入れをしなくても機能する森づくりということで、再生する森づくり、遷移に任せる森づくりというイメージが浮かんでくる。
- ・ 森林づくりは長期スパンで見る必要があるが、この検討会ではとりあえず 50～60 年くらいでみたらどうか？
- ・ 人工林の荒廃や手入れはイメージが湧くが、里山についてイメージが湧かない。里山整備とはどんなことをするのか？どのような整備があるのか？
- ・ 目標とする森のイメージを明確にしてほしい。里山・奥山・二次林・人工林の

現状をいくつかのパターンで捉え、あるべき姿にどのような絵が描かれるのか、それに対してどのような活動の仕方、組織作り、仕組みづくり、県民の協働の形等の要素を整理し、次回にはたたき台を出して議論すればだんだん姿が見えてくるのではないか？

【森づくりの進め方について】

- ・ 人手や自然条件を見ながら、地元の方々や所有者の合意のもと、地域をどうしていくかをいっしょに考え、プランをつくる考え方が重要と思う。
- ・ 新たな里山の利用方法についても情報を流し、地域での実現性を考えることで、森づくりの方向性が見えるのではないか。
- ・ 生物や水源を考えた地域づくり、森づくりが重要。はじめから地元といっしょに考える仕組みは必要である。
- ・ どういう森づくりを目的とするかが重要で、いくつかのパターンがある。県だけではだめ。市町村にかなり理解してもらって地域、所有者の連携で地元から立ち上がる仕組みづくりが重要と思う。
- ・ 二次林の取扱いが難しいので、地域の方に入ってもらって計画を作らなければならない。
- ・ グリーンツーリズムなど新しい山の利用には里山が深く関わっている。行政や地域との連携がガイドラインに反映できたらいい。

【県民意識調査について】

- ・ アンケートは早いほうがよいのではないか。
- ※ 次回までにたたき台を作り、段取りをして絞ったものを案として出したい。
- ・ アンケートで「分からない」「その他」といった回答が多いと意味がなくなる。また、「森林所有者がやればいい」といった回答が多いとどうにもならなくなる。答えやすい回答、アンケートから何が知りたいかを十分検討されたい。
- ※ 内部で検討して示したい。
- ・ クマ被害や台風災害などで、県民は森林を身近に考えているし、森林の大切さはみんな理解している。環境税も含めて何かできることがないかという思いがある。積極的・肯定的な意見が出るよう検討し早めの実施されたい。
- ・ アンケートに際して、意見が吸い上げれるか気になる。森林の機能のイメージが分かる説明が必要。
- ・ 森林所有者がこの委員会にどの程度関心を持っているかアンケートが必要でないか？整備をさせてもらえない、ボランティアに場所を提供してもらえない。森林所有者に山が荒れているとはどういうことか、何を目標にするかもう一度考えてもらう必要がある。
- ※ 検討したい。